

網走でも桜が咲き、暖かい季節となってきました。管内の漁業も本格的な水揚げの時期と思います。

▼網走水試のホームページ（HP）に「マガレイの漁況予測」を掲載しています。これはオホーツク海及び日本海で漁獲されるマガレイの漁況を、雄武町沿岸で行った幼魚調査と漁獲量をもとに資源計算した結果から予測したものです。オホーツク海に分布するマガレイは成長に伴い産卵のため宗谷海峡を越えて日本海北部まで回遊することから、毎年稚内水試と共同で調査結果をまとめ、お知らせしております。今年のオホーツク海域における漁況は、5～8月の夏漁では3、4歳魚の資源量が平年より少なく前年度に比べ減少することが予測されています。また、9～12月の秋漁では2、3歳魚の新たに資源に加入してくる量や4、5歳魚の取り残し量が多くないことから、こちらでも減少が予測されています。近年当海域のマガレイ資源は減少傾向が続いており心配なところです。

▼3月下旬から始まった管内のケガニ資源の状況もあまり思わしくないようです。網走水試が4月14～22日に行った漁場一斉調査の結果によりますと、漁獲対象となる甲長8cm以上雄の100かご当たりの漁獲尾数は昨年の4割、過去(S61～H20)の平均値と比較しても5割程度でした。また、来年以降漁獲対象となる甲長8cm未満雄の100かご当たりの漁獲尾数もそれぞれ昨年の4割、過去の平均値の2割程度であり、今後の資源状況が懸念されます。こちらでも詳細は網走水試のHPをご覧ください。なお、オホーツク総合振興局が集計した4月下旬までの累積漁獲量や1日1隻当たり漁獲量も、今のところ前年より低くなっています。

▼北海道内の気象観測官署(稚内、旭川、網走、札幌、帯広、釧路、室蘭、函館)では、桜をはじめとして生物季節観測を行い、季節の遅れや進み、気候の違いなどを生活情報のひとつとしてHPで公表しています。桜は開花と満開の日を、ほかにカエデやイチョウが紅(黄)葉した日などの植物季節観測やウグイス・アブラゼミの鳴き声を初めて聞いた日、ツバメ・モンシロチョウを初めて見た日などの動物季節観測が行われ、過去の結果と比べることも可能です。

かわって生活情報と言うよりも産業的に重要なホタテガイ幼生に関する情報です。毎年、この時期に道内の水産技術普及指導所などが中心となり各海域でのホタテガイの産卵や幼生の発生状況、採苗器への付着状況を調査してHPなどでお知らせしています。4月28日時点の網走海域では、まだホタテガイ幼生は見られていないようです。昨年の発生は早く4月30日にはすでに小型の幼生が見られていました。なお、H25年に大量に発生しヌタなどと呼ばれ問題となった植物プランクトン(Coscinodiscus wailesii)が今年も日本海で多く見られたとのことでした。

このミニレターも平成22年4月の発送から5年が経過し、今回で50回目となりました。つたない文章と情報ではありますが、継続も力と考えています。ご意見などお寄せいただければと思います。(網走水試 上田)